



個人研究

教育・学習支援

協働プロセスへのワークショップ デザイン応用研究



企業、行政、地域…様々な現場で多様な課題が溢れています。それらを解決するためワークショップという手法が用いられていますが、実態は形だけになることも少なくありません。それはなぜか？ 参加者が主体的に行動する基盤としてのプログラムデザインを、実践をもとに理論の研究をしています。

KEYWORDS ワークショップデザイン、産官学民協働、プロジェクト型学習

RESEARCHER

教養学環 特任講師 佐藤宏樹

<https://www.satohiroki-lab.com/>



学会発表・論文・著書・社会活動

- [1] PBLのもたらす学生の地域進出創造とコミュニティデザインへの効果, 帝京大学高等教育開発センターフォーラム Vol.1, (2014)
- [2] PBLのもたらす学生の地域進出創造とコミュニティデザインへの効果～学生団体N.G.I.をケースとして～, 経営情報学会 地域連携型PBL部会, (2017)
- [3] (共著書)稲葉竹俊編著, 改訂 プロジェクト学習で始めるアクティブラーニング入門-テーマ決定からプレゼンテーションまで-, コロナ社, (2019)
- [4] 東京都府中市市民活動支援センターブラッツ「協働推進コーディネーター養成講座:つなぎすと府中養成講座」プログラムデザインおよび講座講師(2017～)

01 | 合意形成を生み出す対話の場のデザイン

異なる背景を持つステークホルダーが集い、合意形成をしていく場では、ただ闇雲に話し合えば良いというわけではありません。全員が自分ごととしてコミットできる「問い」を提示し、段階的に深めていく「場のデザイン」が重要です。また、他者の意見を尊重し、受け入れられる土壌を作ることも求められます。このような「対話のプロセス」を研究しています。またこれらの知見からワークショップデザインやファシリテーションに関する講習も行っています。



02 | 課題解決へ向けた協働プロジェクトデザイン

企業や地域と連携プロジェクトを行うと、どちらかに負担が偏ってしまうことがありますが、これは真の協働とは言えません。そこで、プロジェクト型学習のインストラクショナルデザインを応用して相互に補完し、学び合うプロジェクト構築を行います。写真は民間のまちづくり会社との商店街活性化を目的とした協働プロジェクトから生まれた商品「おにゴール」です。また、プロジェクトに学生が参加することで、人材育成やキャリア教育への貢献も目指しています。

